

全仏

ZENBUTSU



466

仏暦2544年3月 (2001年)
財団法人 全日本仏教会
JAPAN BUDDHIST FEDERATION



WFB バンコク大会、合同晚餐会での大谷暢顯会長 (右) と
Phan Wannamethee WFB 会長 (関連記事 4～6 頁)

理事会・評議員会開催
阪神・淡路大震災七回忌追悼行事

理事会・評議員会開催

本会の理事会・評議員会が、去る一月三十一日午後三時から、東京グランドホテルで開催された。会議では、平成十三年度の事業計画案や収支予算案が審議された。

評議員会

議長に横山敏明師、議事録署名名人に、松本眞岳、島田喜久の両師を選出し議事に入った。



東京グランドホテルで開催された理事会・評議員会

議案第一号「理事変更について承認を求める件」

横山議長より上程。吉橋総務部長が説明、原案通り承認された。

議案第二号「平成十三年度事業計画（案）について意見を求める件」

議案第三号「平成十三年度収支予算（案）について意見を求める件」

横山議長より、第二号及び第三号の二議案を一括して上程。吉橋総務部長が平成十三年度事業計画案を説明、続いて倉澤財務部長が平成十三年度収支予算案を詳細に説明、質疑応答の後、両議案とも原案に賛成の意見が表明された。

理事会

北條理事長を議長に、議事録署名名人に、大塚恵章、近藤真道の両師を選出し議事に入った。

議案第一号「常務理事変更について承認を求める件」

北條議長より上程。吉橋総務部長が説明、原案通り承認された。

議案第二号「平成十三年度事業計画（案）について承認を求める件」

議案第三号「平成十三年度収支予算（案）について承認を求める件」

北條議長より、第二号及び第三号の二議案を一括して上程。吉橋総務部長が平成十三年度事業計画案を説明、続いて倉澤財務部長が平成十三年度収支予算案を詳細に説明、質疑応答の後、両議案とも原案通り承認された。

報告事項

議案の審議終了後、以下の件について評議員会・理事会に報告が行われた。

①第二十一回WFB世界仏教徒会議バンコク大会について

吉橋総務部長が昨年十二月に開催された同大会の概要と大谷暢顯本会会長を団長とした大会参加旅行について報告、引き続き櫻井国際文化部長が会議について報告。

②ルンビーニ園マヤ堂修復事業の現況報告

青地敬水ルンビーニ委員会委員長より、ユネスコの世界文化遺産保護の指導に沿ったマヤ堂復元の設計の進捗状況と発掘に伴う考古学調査報告書の作成状況について報告された。

③加盟団体報告

・新潟県仏教会の中村啓識会長、春日浩三副会長より本年十月に開催する第三十八回全日本仏教徒会議新潟大会（開催地・長岡市）の開催要項案について詳細に説明された。

・岐阜県仏教会の加納博司本会理事より青少年問題や凶悪事件の増大に鑑み「こころの日」を設けて心豊かな社会を作る運動を推進

告されている岐阜県仏教会の活動状況について報告された。

④事務総局各部報告

- ・ 同和推進部長より今年が同宗連結成二十周年にあたり記念行事が行われることが報告された。
- ・ 社会部長より昨年十二月に築地本願寺別院で開催した教化セミナー「いま、仏教と医療を考える」と三月下旬に開催予定の「仏教とマルチメディア」セミナーについて報告された。



懇親会で祝辞を述べる大谷暢顯会長（左）

（左より続いて白井副会長、中村副会長、北條理事長、組坂部落解放同盟委員長）

- ・ 国際文化部長より本会が作成した新花祭りポスターについて報告された。
- ・ 国際文化部長より、一月二十六日に発生したインド西部グジャラート州を中心とした大地震に対し、百万円程度の義捐金を拠出する予定であることを報告された。

新年懇親会

午後五時半から、同じ東京グランドホテルを会場に恒例の新年懇親会が開催された。大谷暢顯会長、北條成之理事長の挨拶に続いて来賓の組坂繁之部落解放同盟中央執行委員長から祝辞が述べられた。その後、白井慈勲副



春風亭小柳枝師匠

会長の発声で乾杯を行い、暫しの間、約二百人の出席者による、和やかな懇親の夕べとなった。新年懇親会の彩りに、清興として、三遊亭右紋師匠の新作落語、翁家喜楽・喜乃親子による大神楽曲芸、真打ち春風亭小柳枝師匠の古典落語等を楽しんだ後、中村啓識副会長の挨拶でお開きとなった。

花まつり新ポスター完成

本会が毎年頒布しております、花まつりのポスターのデザインを一新し完成しました。価格は従来通り、一枚百円で、送料は実費ご負担下さい（着払）。お申し込みは五枚以上で、本会事務総局までFAX（〇三―三四三七―三二六〇）あるいはハガキでお願いします。なお旧デザインのものも在庫がございます。申込時新旧を明記して下さい。



（たて594mm×よこ420mm）

本会リーフレット完成

本会を紹介するリーフレット（和英併記）ご希望の方は本会事務総局（電話〇三―三四三七―九二七五）までご連絡ください。



タイ国バンコクで第二十二回世界仏教徒会議開かる 次回は平成十四年にマレーシアで開催

全日本仏教会国際委員会委員長 松濤 弘道

世界仏教徒連盟の創立五十周年を記念して、第二十二回WFB世界仏教徒会議およびWFBY（仏教青年会）会議が同連盟本部のあるタイ国バンコクのターラ・ホテルで、十二月五日から十一日までの一週間にわたり、「仏教とグローバルゼーション」のテーマの下、盛大に行われた。この会議には世界十九カ国から加盟六十四団体、約五百名の代表およびオブザーバーが参集し、わが国唯一の加盟団体である全日本仏教会からは、大谷暢

顯会長（真宗大谷派門首）以下六十余名および全日本仏教青年会代表が参加した。十二月五日、世界仏教徒連盟会長はじめ同連盟執行委員とわが国からの参加者が一堂に会して合同晩餐会をバンコク市内のインペリアルクイーンズパーク・ホテルで行い、お互いの親睦を深めた。六日、市内の文化センター会議場において開会式が行われ、タイ国首相臨席の下開会宣言がなされ、各国元首の祝辞と共に大谷会長が祝辞を述べた。同日から

七日にかけて、主会議場であるターラ・ホテルで総会および全体会議が行われ、新加盟団体への証書授与や各加盟団体の祝辞、経過報告がなされた。八日、同所に於いて会議参加者は、九分科会に別れて前回のオーストラリアでの会議以来、直面する各種問題を討議し、釈尊の生誕地ルンビニー開発事業についてネパール側の経過報告がなされ、夕刻から迎賓館で行われたタイ国首相主催の歓迎晩餐会に臨んだ。

九日、世界仏教徒連盟本部会議場において、タイ国教育相および同国僧伽最長老祝下での臨席の下、世界仏教徒大学の開学式が開催され、引き続き「現代および未来へ挑戦する世界仏教徒大学の使命と役割」と題する基調講演がスリランカ国連大使グルゲ閣下およびタイ国王立研究機関元事務総長チョンプラサー氏によって行われた。夕刻からは隣接するベンチヤスリ公園の野外湖畔会場にて同仏教徒

会議の閉会式および歓送会が行われ、次期大会開催地マレーシアの代表へ大会旗を引き渡しし、各国からの舞踊や歌唱の余興が披露された。十日、同公園特設会場にて参加比丘への記念品贈呈式が行われ、引き続き、バンコク市郊外にある二十五万人収容の広大なダルマカーヤ寺院に移動し、約三万人参集した同信徒との交歓会に臨んだ。十一日にすべての会議が終了し、大会参加者は一週間にわたる主催国の歓待と盛り沢山のプログラムの感慨を胸に秘めて、それぞれ帰国の途についた。

世界仏教徒連盟が今から五十年前の一九五〇年にスリランカで創立されて第一回会議開催以来、隔年おきに世界各国で開催され、わが国でも一九五二年および七八年の二回にわたり東京と京都で開催されている。今回の会議で特筆すべきことは、このバンコク会議は世界仏教徒連盟の創立五十周年の節目にあたり、同本部所在地タイ国では仏教が国教でもあり、本部の威信にかけても同会議を盛大に、且つ意義あるものにしたという意気込みが感じられた。

また、会議期間中は、現国王の七十二歳の誕生日にあたることから、街の至る所に満艦飾の電飾に輝く国王の肖像画が掲げられ、祝祭気分が高揚した週間でもあり、各国からの参加者は、仏教と仏教徒である国王への国民の尊崇振りを直接肌を感じる貴重な経験を得たことと思われる。

私個人の感想としては、二年に一度、世界各国の仏教徒が一堂に会してお互いの親善と情報交換をするという会議のイベント的意義や価値もさることながら、今回は二十世紀最後の総括と、来る二十一世紀を展望する特に記念すべき年でもあったことである。

この機会にタイ国政府の援助によって、国連大学と同様な趣旨の世界仏教徒大学が開学して、その施設が既に皇居に匹敵する広大なバンコク郊外の景勝地ブツダモンティン公園内に設立され、また、草の根的に大衆の力によって創建されたダルマカーヤ寺院では、毎日曜日に数十万



ターラ・ホテルでの全体会議



各国から参加した代表团

の僧俗仏教徒が一堂に会して礼拝するという実践活動を行っている。

世界的に混迷の時代にあつて、仏教国タイでは、二十一世紀は「今こそ仏教の出番」と世界に向けて積極的の活動、発信する、このような時代を先取りする試みや敬虔な仏教徒の姿を目の当たりにして、新しい時代の黎明を痛感させられた次第である。

世界仏教徒会議の参加報告

事務総長 西村 輝成

全日本仏教会の呼びかけの、第二一回WFB世界仏教徒会議への参加代表団六十余名が十二月五日、成田空港に於て結団式を行った。今回の会議は当初スリ



西村事務総長(左)・松濤委員長

スコタイ・ワットサーシー寺院を参拝する全日本仏教会代表団



ランカで予定されていたものが、同国内の治安が心配され、急遽タイ国バンコクで開催されることになったものである。

午前十時三十分発TG六四一便は航路順調に、十八時三十分バンコク空港に着、機内アナウンスはバンコクの気温は摂氏三十度と報じていた。バンコク市内の交通渋滞は世界一との定評があるが、高速道路が市内に整備されており、予想外に早くインペリアル・クイーンズパークホテルに到着した。

今夜はこのホテルを会場に、全仏主催でWFB関係の代表者を招いての交歓パーティーが行われる。会場は南国ムードにあふれたガーデン・プールサイドに設営された。御招待したWFB会長や、各代表執行委員方は翌日に控えた開会式

準備で多忙にも拘わらず、多数出席下された。

日本代表団全員と共に有意義な懇親会の夕べが催されたが、残念なことに来賓の方はなにかと我々に話しかけてこられるが、何せ日本人の英語下手で、精一杯片言の英語で努力するが、後はニコニコ外交である。かつて昭和五十二年に世界仏教徒会議を日本で開催したが、やはり言葉の障害を痛感して全仏では「仏英研」を発足させたが長続きしなかった。

翌日午後二時から市内の文化センターで開会式が行われ、世界十九ヶ国、加盟六十四団体の代表で会場は埋め尽くされて盛大に挙行された。

WFB会長、タイ国首相、各国元首の祝辞と共に、全日本仏教会、大谷暢顯会長(真宗大谷派門首)が壇上に立たれ、メッセージを読み上げられた。

実質、会議のスケジュールは七日から十一日までが分科会や全体会議、さらにはルンビニー開発事業についてのネパール代表の経過報告等がおこなわれたが、これらの会議には日本側代表として松濤弘道全仏国際委員会委員長、櫻井国際文化部長、入西同次長が、そして私、西村は九日まで参加した。

代表団は吉橋総務部長の他、事務総局員の引率の下、七日から九日迄の間、チエンマイはブラシム寺院、花園寺院、スコタイはスリチェム寺院、プラパイア寺院等の巡拝や、遺跡観光、さらにはメオ族村、エレファント・キャンプを歴巡して、十日に無事帰国の途に就いた。

仏教とマルチメディア研究会主催

公開セミナー

「最先端マルチメディアの動向と仏教研究極のマルチメディアとは」

：寺院のマルチメディア有効活用事例紹介とマルチメディアなんでも相談コーナーも併設！

日時：三月二十七日(火)

十一時～十六時

基調講演・シンポジウム

十三時～十五時

マルチメディアよろず相談コーナー

十一時～十六時

場所：リーガロイヤルホテル京都

JR京都駅より徒歩十分、

南口より送迎バスあり

電話〇七五―三四四―一一二二

基調講演 小栗宏次氏

(愛知県立大学教授)

お問い合わせ

全日本仏教会事務総局社会部

〒一〇五―〇〇一一

東京都港区芝公園四一七―四

明照会館二階

電話〇三―三四三三七―九二七五

FAX〇三―三四三三七―三二六〇

ホームページ

http://www.jivan.co.jp/~jbf

Eメール

jbf@opul.family.ne.jp

ルンビニー園マヤ堂修復事業の

御報告

謹啓 余葉の候、貴台益々御清栄のこととお喜び申し上げます。

釈尊の御生誕地であるネパール王国ルンビニー園内のマヤ堂修復事業にあたっては、平素より御支援御指導いただき、心より厚く御礼申し上げます。

思い起こせば、今から二十余年前の一九七八年に開催された第十二回WFB世界仏教徒会議日本大会において、荒廃していたルンビニー園の復興に協力することが決議されました。そして、一九八八年、ルンビニー開発トラスト(LDIT)からの要請を受け、大きく繁茂した菩提樹の根により崩壊の危機に瀕していたマヤ堂の修復事業が本会の手により開始されたことを御記憶のことと思います。厳しい気候風土や不安定な政治経済情勢を持ち、国民性の全く異なる遠隔の地ネパール王国で、本会は加盟の諸宗派・都道府県仏教会・諸団体、全国の仏教徒からの約二億五千万円の貴重な浄財を元に、長年に渡りこの困難な大事業に取り組んでまいりました。

御承知の通り、マヤ堂修復にあたっての事前の考古学調査は一九九六年に終了し、一九九七年には、ルンビニーはユネスコの世界文化遺産に登録されました。現在、本会は遺跡・遺物の整理返還と考古学調査報告書本編の発行に向けた作業

を進めております。一方、マヤ堂修復設計案作成につきましては、世界文化遺産保護の見地に立つユネスコの勧告のもとに、LDITによる作成作業が進められており、作業完了後にはユネスコの判断を仰ぐことになっております。さらに、今日までの本事業の経過及び収支等についての現況は理事會に御報告をしていた通りであります。現時点における事業資金の残余はごく僅少であるのが現状であります。従つて、近い将来マヤ堂修復設計案が決定し、本格的な建築作業を行っていくためには更なる資金と時間が必要になります。何卒その点を御理解いただき、引き続きの御支援御指導をいただき、その節は宜しくお願い申し上げます。

日本の仏教徒による釈尊への報恩行たるマヤ堂修復事業の完遂のため、今後とも末永くご援助いただきたく、いづれ改めてお願いしたく存じます。 合掌

平成十三年 二月三日

財団法人 全日本仏教会

理事長 北條成之
事務総長 西村輝成
ルンビニー委員会

委員長 青地敬水
副委員長 本間孝康

ルンビニー委員会事務連絡会議

一月二十六日午後二時から、明照會館會議室で、青地敬水ルンビニー委員会委員長、本間孝康同副委員長、建築家熊谷義信氏、西村事務総長、櫻井国際文化部長、入西同次長出席のもと、ルンビニー委員会事務連絡會議が開催された。

今回は、二月七日にカトマンズで開催される運営委員会(ネパール側と本会を構成・マヤ堂の修復方針を検討することを目的)への参加方針を協議した。

そして、マヤ堂修復方針の確定のため、ユネスコに対し提出する設計案や、遺跡の状況・環境に関する付帯書類を一日も早く完成させ、ユネスコの判定をあおぐことを念頭において會議に臨むことを確認した。

また、運営委員会には青地委員長、考古学者上坂悟氏、建築家熊谷義信氏、櫻井国際文化部長、入西同次長の五名を参加させることを決定した。

※ ※ ※
なお、上記「ルンビニー園マヤ堂修復事業の御報告」を二月三日付で、各加盟団体、前回寄付協力者宛に送付した。

仏教とマルチメディア研究会

十二月二十日午後二時から、明照會館會議室で、第八回仏教とマルチメディア研究会が開催された。

そして協議の結果、年度末の三月中(三月二十七日火曜日)に公開セミナーを主催(於リーガロイヤルホテル京都)する

ことが決定された。

また、各宗派の実務におけるマルチメディアの活用状況について、アンケート形式で調査・集計し、情報交換を行うことになった。また、インターネットの日本語ドメイン(インターネット上の住所)の取得状況などについて活発に情報交換が行われた。

事務局来訪者

十二月十五日、本会事務局にインド人民党全国執行委員会委員 K.N.Govindgaraya氏が、外務省関係者と来訪。西村事務総長らと、日本における宗教と社会との関わり、宗教団体と政党との関係等について懇談を行った。

また、一月十七日、Lumbini Development CouncilメンバーのRama Man Sakyia氏が事務総局を来訪。ルンビニー園マヤ堂復興事業などについて、事務総局と意見を交換した。

法律相談室

長谷川正浩弁護士による無料法律相談を毎月第二、第四木曜日の午後開催しております。本会事務局(〇三三三四三七一九二七五)へ事前予約の上おいで下さい。

阪神・淡路大震災七回忌追悼行事

一月十七日、震災から六年目を迎えた神戸を中心に、七回忌法要など多くの追悼行事が営まれた。

財団創立四十周年の際、本会が追悼碑を建立した須磨寺では、午前十時より小池弘三貫首を導師にしめやかに追悼法要が行われた。本会からは渡邊社会部長、壽山同次長が参列した。同寺では、チベット僧侶出仕による砂



曼荼羅法要なども行われた。

午後二時から、兵庫県仏教会主催による追悼法会が兵庫県私学会館で行われ、法要の後、被災者でもある大村昆氏が「いま、幸せでつか」と題して講演を行った。

また、全日本仏教青年会は、午前九時に長

田区のJ R鷹取駅から兵庫区の中道公園迄、被災地を二時間をかけて追悼行脚を行い、中道公園では、午前九時から各宗派の青年僧が

地元の人々と共に追悼法要を行った。正午からは金峯山青年僧の会の修験者が採灯護摩供を行い、二時から同所での神戸市仏教連合会による法要が厳修された。

また高野山真言宗青年教師会は、高野山奥の院の、不滅の法灯「貧女の一灯」を採火し、神戸まで徒歩で行脚。その火を分灯し、各地の震災モニュメントに巡礼を行った。

そのほか、多くの本会加盟団体が、本山や各地の別院などで法要を行い、改めて犠牲者に追悼の意を表した。

東京都仏教連合会成道会

十二月十二日、九段会館を会場に、東京都仏教連合会主催による成道会の集いが開催された。本会から櫻井国際文化部長が出席した。

午後一時から、川澄祐勝東京都仏教連合会会長を導師に釈尊報謝の読経が行われ、三帰依文を唱和。続く第一部では中国留学生による、中国民族楽器による演奏が披露され、たおやかな調べに参加者は感銘を受けていた。

最後に、野末陳平氏が「逆転時代の家族づきあい：少子高齢社会の年金と税金のゆくえ」と題し講演を行い盛会であった。

大蔵経データベース化支援募金会

発足記念講演会

十二月十四日、赤坂・TBSホールで、大蔵経データベース化支援募金会発足記念講演会「日本文化と大蔵経」が行われた。本会から櫻井国際文化部長が出席した。

初めに、仏教思想家のひろさちや氏が、「日本人と宗教」と題し、続いて梅原猛氏が「大蔵経と法然」をテーマに講演を行った。

主催の(財)仏教学術振興会大蔵経データベース化支援募金会では、仏教各宗派をはじめ広く一般に、『大正新脩大蔵経』八十五巻のテキストデータベース化、およびインターネットでの無料公開事業推進の為に財政支援を呼びかけている。

事務局・連絡先
〒111-0103 三六

東京都台東区松が谷四二一六

ハイコーポ松が谷八〇五号室

電話 〇三―三八四一―四三九八

FAX 〇三―三八四一―四四〇五

E-mail okada-kei@muc.biglobe.ne.jp

常務理事会開催

十二月十三日午後二時から、リーガロイヤルホテル京都で常務理事会が開催された。

三帰依文唱和に続いて、北條理事長を議長に、白幡憲佑・細川景一の両師を議事録署名人に選出し議事に入った。

議案第一号「平成十三年度事業計画(案)・収支予算(案)の大綱について承認を求めらる件」

北條議長より上程。吉橋総務部長が事業計画案について、続いて倉澤財務部長が収支予算案について説明、原案通り承認された。

報告事項

①第二十一回WFB世界仏教徒会議バンコク大会について

吉橋総務部長と櫻井国際文化部長より十二月初旬に開催された同大会のWFB創立五十年式典・全体会議・分科会議・世界仏教徒大学開校式と大谷暢顯会長を団長とした参加旅行について詳細に報告された。

次回開催地はマレーシアに決定された。

②事務総局各部報告

各担当部長より、報告された。

大阪府佛教徒大会

第三十五回大阪府佛教徒大会が、十一月十

五日午後三時三十分から、ホテル日航大阪を会場に盛大に開催された。

第一部の式典では、音楽法要が厳修された後、増田貞圓大阪府佛教会会長の挨拶、府佛会員住職の在任三十年表彰、来賓祝辞と続いた。

第二部は、「宗教と教育PARTⅢ、少年法改正案論議を機に」をテーマに、シンポジウムが行われた。パネリストは、谷川秀善・参議院自由民主党副幹事長、川崎泰資・相山女学園大学教授、平岡龍人学校法人清風学園専務理事が、また増田貞圓・大阪府佛教会会長がコーディネーターをつとめ、青少年犯罪の増大と凶悪化・低年齢化の問題に対して、国会で審議された少年法の改正論議について真剣に討議された。

事務総局録事

一月

- 九日 局内会議
- 十一日 法律相談室
- 十二日 埼玉県佛教会新年会出席
- 二十日 日宗連シンポジウム
- 二十四日 局内会議
- 二十六日 ルンビニー事務連絡会議
- 二十九～三十日 同和推進担当者連絡会
- 三十一日 評議員会・理事会・新年懇親会

二月

- 六日 茨城県仏教会実務研修会出席
- 八日 戒名(法名)リーフレット作成委員会
法律相談室
- 十三日 同和委員会
- 十四日 大本山増上寺法主本葬儀参列
日宗連理事会
- 十六日 局内会議
- 二十二日 法律相談室
- 二十三日 全日本仏教青年会大会出席

哀悼

- 藤堂恭俊師
十二月十四日遷化 八十二歳
浄土宗大本山増上寺法主
- 高山宥進師(全仏元評議員)
一月二十二日遷化 八十二歳
元真言宗豊山派集議
- 田中亮三師(全仏元常務理事)
一月二十七日遷化 八十九歳
元曹洞宗事務総長
- 友松諦道師(全仏元事務総長)
一月二十八日遷化 八十一歳
浄土宗神田寺住職
真理舎主管